

所 報

2000年1月から12月までの社会科学研究所の活動は以下のとおりである。

一 機構および人事

(一) 所員総会

1. 第75回定例所員総会 (2000. 5. 27, 神田校舎 13A会議室)

議事 (1)定例所員総会資格確認。(2)嶋根克己所員を議長に選出。(3)古川純所長挨拶。(4)新委嘱所員の6名の紹介。(5)運営委員会・事務局の構成確認。運営委員会委員：古川 純(所長) 松浦利明(経済学部) 石村修(法学部) 池本正純(経営学部) 川村晃正(商学部) 嶋根克己(文学部) 矢吹満男(前事務局長) 黒田彰三(事務局長) の以上8名。会計監査委員は平川東亜所員。事務局員は黒田彰三(事務局長)、平島真一、村上俊介(財政担当)、野口眞、森川幸一、矢澤昇治、福島義和、溝田誠吾(研究会担当)、町田俊彦、狐崎知己(文献資料担当)、酒井進、平田和一、広田康生(編集担当)、内藤光博(社研叢書担当) 石塚良次(パソコン担当) の各所員以上15名。

議題 (1)新所員委嘱について (2)1999年度事業報告 同決算報告(会計監査報告書添付) (3)2000年度事業計画案 同予算案。以上について、事務局各担当から報告がなされ、承認された。

2. 第76回定例所員総会 (2000. 12. 02, 生田校舎 第6会議室)

議事 (1)定例所員総会資格確認。(2)矢吹満男所員を議長に選出。(3)古川純所長挨拶。(4)2000年度事業経過報告並びに会計中間報告。

議題 (1)2001年度事業計画案並びに同予算案 (3)所長、事務局長、会計監査委員の改選。所長には、古川純現所長、事務局長には黒田彰三現事務局長が再選され、会計監査委員には村上俊介所員が選出された。

(4)講師謝金の一部改正について、事務局から「講師謝金等に関する内規 1 (講

師謝金)」に、「それ以外の者（非常勤講師を含む）がシンポジウムの講師となり、特に10時から17時の時間帯を拘束した場合、55,555円を支払う。」との文言を付加することが提案され、承認された。また関連して「旅費、宿泊費の支払いの運用について」、税処理の点から新たな運用につき説明があり、了承された。

(5)春期集中合宿研究会（海外調査）について、古川所長から「3月15日から20日の5泊6日で、北京と大連で集中合宿研究会を開催する企画概要」について報告がなされた。大連の調査日程において「工場見学」のオプションをさらに増やすことと費用についても、さらに詳細をコーディネーターと連絡を取り合って決め、参加確定者に連絡することで了承された。

(6)社研叢書について事務局から「50周年記念シンポジウム」と「特別研究助成に基づく成果」による原稿の提出状況と出版局との連絡状況が報告され、了承された。

(二) 所員の移動

1. 所員の解嘱

岡本 坦，加藤幸三郎，二瓶 敏の三所員は、2000年3月31日定年退職のため所員を解嘱した。

2. 新所員の委嘱

大谷 正（法），永江雅和（経），兵頭淳史（経），宮崎晃臣（経），藤本一美（法），黒瀬直宏（商）の六氏が所長より新所員として委嘱された。

3. 研究参与の委嘱

岡本 坦，加藤幸三郎，二瓶 敏の三氏に研究参与を委嘱した。

4. 研究参与，所員の解嘱

斉藤秋男研究参与は、2000年3月19日ご逝去されたため研究参与を解嘱した。

大友福夫研究参与は、2000年3月28日ご逝去されたため研究参与を解嘱した。

今田治弥研究参与は、2000年3月29日ご逝去されたため研究参与を解嘱した。

大島久幸特別研究員は、2000年3月31日付で特別研究員を解嘱した。

藤原法子特別研究員は、2000年3月31日付で特別研究員を解嘱した。

5. 事務局員の交代

村上俊介所員に代わって田中隆之所員を6月23日付で会計担当に委嘱した。

内藤光博所員を5月9日付で社研叢書担当に委嘱した。

吉田雅明所員を11月21日付でパソコン担当に委嘱した。

二 研究調査活動

(一) 定例研究会

- (1) 1月22日(土) 11時から 神田7B会議室
テーマⅠ：「東京都のグリーンGDP」
報告者：小久保幸市氏(東京都庁)
テーマⅡ：「新しい地域経済計算構築のために」
報告者：鈴木多加史氏(関西学院大学)
グループ研究「国民経済計算研究会」と共催
- (2) 1月28日(金) 16時から19時まで 神田社研
テーマ：「『まちづくり』をめぐる——これからの都市風景について——」
報告者：西村幸夫氏(東京大学工学部)
- (3) 6月9日(金) 16時半～ 生田M841小会議室
テーマ：フランス自動車産業の最近の動向
報告者：パトリック・フリダグソン氏(パリ市・社会科学高等研究院歴史科学センター長)
- (4) 6月15日(木) 16時半～18時 神田社研
テーマ：最近の中国の立法事情—物権法草案を中心に
報告者：渠 涛 氏(中国社会科学院法学研究所研究員)
(グループ研究「東北アジアの法と政治」と共催)
- (5) 7月13日(木) 16時半～ 生田M832小会議室
テーマ：欧米の労働問題
報告者：スコット・フュース氏(経済学部客員教授・ネブラスカ大学経営学部準教授)
コメンテーター：浅見和彦所員, 八林秀一所員
- (6) 7月17日(月) 18時半～20時半 神田1号館72教室
テーマ：自治体のIT革命
報告者：榎並利博氏(富士通総研マネジングコンサルタント)
- (7) 7月29日(土) 14時～ 川崎市岡本太郎美術館ガイダンスホール
テーマ：境界の美術史
報告者：北澤典昭氏(跡見学園女子短大)

- (8) 11月16日(木) 17時～ 生田社研会議室
 テーマ：英国の環境政策
 報告者：福士正博氏(東京経済大学)
 (グループ研究『1980年代英国の保守政治の分析』と共催)
- (9) 11月25日(土) 10時半～ 生田校舎420教室
 シンポジウム：風景と近代—オギュスタン・ベルク氏を囲んで—
 基調報告：風景と『近代の超克』
 報告者：オギュスタン・ベルク氏(宮城県立大学)
 関連報告：1) 風土論と存在論
 中山 元氏(翻訳家、哲学者)
 2) ランドスケープと映像
 山田晴通氏(東京経済大学、地理学)
 3) 明治期の別荘と風景——建築物のオーセンティシティとしての風土——
 土屋和男氏(常葉学園短期大学、建築学)
 全体司会：大庭 健氏(専修大学、倫理学)
- (10) 11月29日(水) 16時～18時 神田社研分室
 テーマ：ゼロ金利解除を巡って——岩田規久男『ゼロ金利の経済学』を中心に——
 報告者：森 宏 研究参与
 コメンテーター：森 映雄早稲田大学教授(金融経済学)
- (11) 12月5日(火) 16時半～ 生田92A会議室
 テーマ：環太平洋地域における中国と日本の役割
 報告者：何 芳 川氏(北京大学副学長・歴史学部教授)
 (人文科学研究所と共催)

(二) 特別研究会

- (1) 春期実態調査(福岡県小倉市および大分県大分市)
 3月15日午後：「㈱三井ハイテック」見学
 3月16日午前：「㈱ゼンリン」見学
 午後：「三和酒類㈱」見学
 3月17日午前：「立命館アジア太平洋大学」見学
 午後：「新日本製鉄大分製鉄所」見学
 午後：「湯布院観光総合事務所」訪問と聴き取り

(2)夏期実態調査(愛知県豊橋市周辺)

7月24日;ニデック見学(蒲郡市)

7月25日:午前:樹研工業 見学

午後:フジミインコーポレイティッド見学

7月26日:旭サナック見学

(三) グループ研究助成

☆グループ研究助成A

1) この研究助成の対象となるものは、所員5名以上をもって組織される研究会であり、この研究会に対して3年を限度として各グループ一律に、研究所の予算の範囲内で研究助成を行う。

2) この研究助成を受けたグループは助成終了後3年以内に、グループのうち1人以上の所員が、当グループが定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所在指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表しなければならない。

3) この研究助成を受けたグループは、毎年5月に開催される所員総会に研究経過報告書を提出しなければならない。

今年度は、以下の(1)から(3)の3件の助成を継続し、新たに(4)から(7)の4件を助成している。(下線は所員)

(1)「現代日本の産業構造」(1998年度発足)

(大西勝明<責>井上裕・溝田誠吾・三輪芳郎・柴田弘捷・水川侑・矢吹満男・田口冬樹・二瓶敏の9名)

(2)「20世紀とは何であったか」(1999年度発足)

(宮下誠一郎<責>吉家清次・鶴田俊正・正村公宏・山田節夫・玉垣良典・松田修・吉岡恒明の8名)

(3)「最近の少年犯罪・学級崩壊に関連する諸問題の実証的研究調査」(1999年度発足)

(栗木安延<責>嶺井正也・森武夫・鐘ヶ江晴彦・西岡幸泰・玉水俊哲・田口康明・御園生純・白根澤正士・山本聡・多田庶弘・亀山憲一・熊谷徹の14名)

(注:嶺井所員が学内の各種委員で多忙のため栗木所員に責任者を交代)

(4)「1993年SNAをめぐって」(2000年度発足)

(作間逸雄<責>田路健一・佐藤博・市岡修・福島利夫・大林守・野口旭・大倉正典・原田博夫・望月宏・黒川保美・桜井通晴の11名)

(5)「東北アジアの法と政治——21世紀を展望する——」(2000年度発足)

(石村修<責>大谷正・樋口淳・内藤光博・古川純・小林直樹・野村浩一・
高見沢麿・渠涛の9名)

(6)「1980年代、英国の保守政治の分析」(2000年度発足)

(石塚良次<責>浅見和彦・福島義和・黒田彰三・広瀬裕子・作間逸雄の6
名)

(7)「国際貿易と国際資本移動の研究」(2000年度発足)

(田中隆之<責>壽崎雅夫・小島直・山中尚・平島真一の5名)

☆グループ研究助成B

1) この研究助成の対象となるものは、所員2名以上をもって組織される研究会であり、この研究会に対して1年間各グループ一律に、研究所の予算の範囲内で研究助成を行う。

2) この研究助成を受けたグループは、毎年5月に開催される所員総会に研究経過報告書を提出しなければならない。

今年度は以下の2件に助成している。

(1)「インドにおける電子産業の発展とコンピュータ企業の立地動向」

(米田巖<責>福島義和の2名)

(2)「グローバリズムと日本経済」

(野口旭<責>宮本光晴の2名)

☆特別研究助成

1) この研究助成の対象となるものは、所員5名以上をもって組織される研究会であり、この研究会に対して、運営委員会の議を経て、3年を限度として毎年100万円以内の研究助成を行う。

2) この研究助成を受けたグループは、助成終了後2年以内に研究成果を「社会科学叢書」として刊行しなければならない。

2000年度は、所員の申請に基づき一件を「内規」に従い、助成している。

「現代企業組織のダイナミズムの研究」(2000年度発足)

(池本正純<責>伊東洋三・丹沢安治・岡田和秀・坂口幸雄の5名)

三 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

1月(439)号 森宏研究参与「日本人の食料消費——コウホート分析」

2月(440)号(3月号と合併)加藤幸三郎所員「生い立ちの記——次の世代の友へ——」

- 3月(441)号(2月号と合併)加藤幸三郎所員「生い立ちの記——次の世代の友へ——」
- 4月(442)号 高梨健司所外研究員「養蚕畑作地帯における絹織物・桑園経営の展開——埼玉県大里郡新会村正田家を中心に——」
- 5月(443)号 堀江洋文所員「チューリッヒ婚姻裁判所規則とジュネーヴ教会裁判所」
- 6月(444)号 野口旭・作間逸雄・石塚良次所員「グローバリズムをめぐる神話と現実」
- 7月(445)号 山中 尚所員「銀行規制と破綻処理スキーム」
- 8月(446)号 Scott M. Fuess, Jr. "RECENT LABOR MARKET PERFORMANCE: COMPARING THE U. S., EUROPE, AND JAPAN"
- 9月(447)号 福島新吾研究参与「内田義彦——What was he?」
- 10月(448)号 森 宏研究参与「岩田規久男『ゼロ金利の経済学』を読んで——従来のマクロ理論への不満——」
- 11月(449)号 加藤幸三郎研究参与「北欧の旅——第19回国際歴史学会に参加して——」
- 12月(450)号 作間逸雄所員「文化財保護をめぐるナショナリズムとインターナショナリズム」

四 その他の活動

文献資料の収集と整理

(1)社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの(辞書, 統計, 白書, 年鑑など)に重点を置き収集した。

(2)CD・ROM版, ビデオ版の文献資料を積極的に収集する, という方針に基づいて, 文献資料を収集した。OECD等の国際機関が出しているCD・ROM版統計資料について, 前年度までに購入したものの一部を最新版に更新した。

(3)収集で重点を置いているリファレンス資料は極力前面に配架した。うちCD・ROM版の文献資料はロッカーに別途保管している。CD・ROM版の文献資料の一部については, 貸し出し用を作成して所員の利用の便宜を図っている。

(4)文献資料の検索は「図書カード」によるものとし, 収集した文献整理を行っている。

(5)事務局文献資料担当から所員への情報提供をはかるために, 前年度に新規収集

した主要文献資料を主な内容とする「社研ニュース」2000年度 No.1を発行し、所員へ配布した。

以上